

## 令和7年度後期「『みんなで成長』アンケート」の結果について

平素は本校教育活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、12月に実施いたしました「『みんなで成長』アンケート」につきまして結果をまとめましたので、みなさまにお伝えいたします。なお、今年度の質問項目につきましては、学校運営協議会との協議のもと変更させていただいております。また、学校運営協議会でも本結果をもとにご意見を頂戴しましたので、その内容も併せて記載しております。本結果をもとにこれまでの教育活動等を振り返り、本校の子どもたちはもちろんのこと、本校に関わりのある方々も含めまして共に「みんなで成長」できる下鴨教育をめざしていきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

### 学校教育目標

学びを創造し、  
共に挑戦する  
子どもの育成

### めざす子ども像

#### 下鴨小の「a・i・u・e・o」

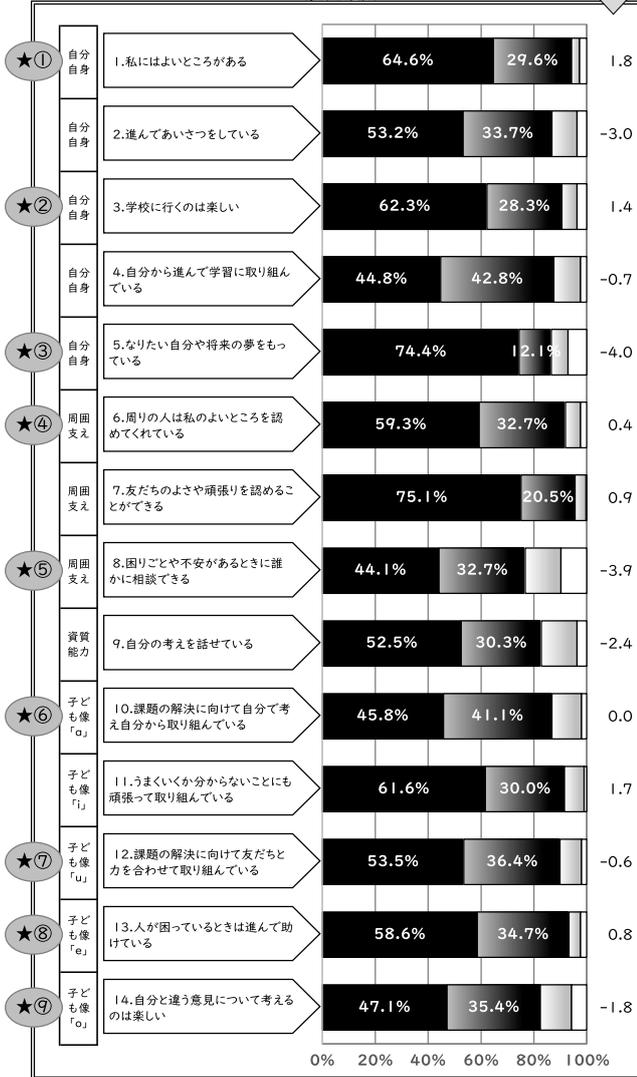
- a**mbition : 見通しをもった志のある子
- i**nnovation : 新たなことにチャレンジする子
- u**nity : 共に力を合わせる子
- e**steem : 自分も相手も大切にする子
- o**riginality : 自分らしい学びを創り出す子



## 【児童】

有効回答数：297

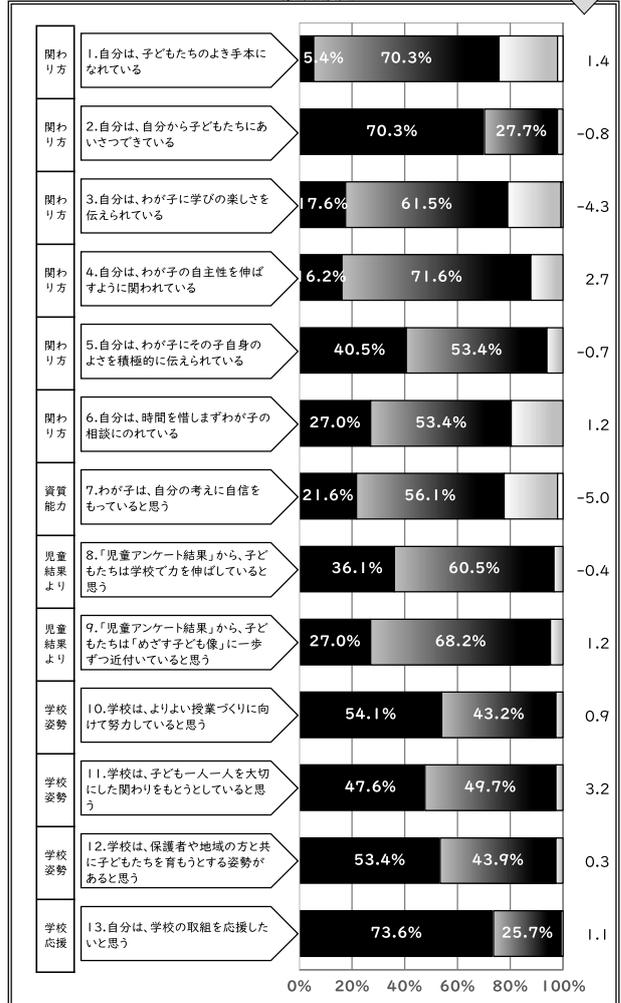
令和7年度前期の肯定的回答率との比較



## 【保護者】

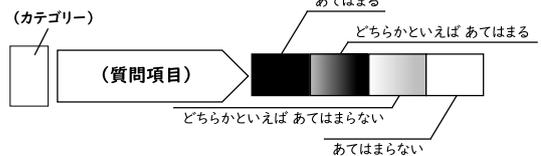
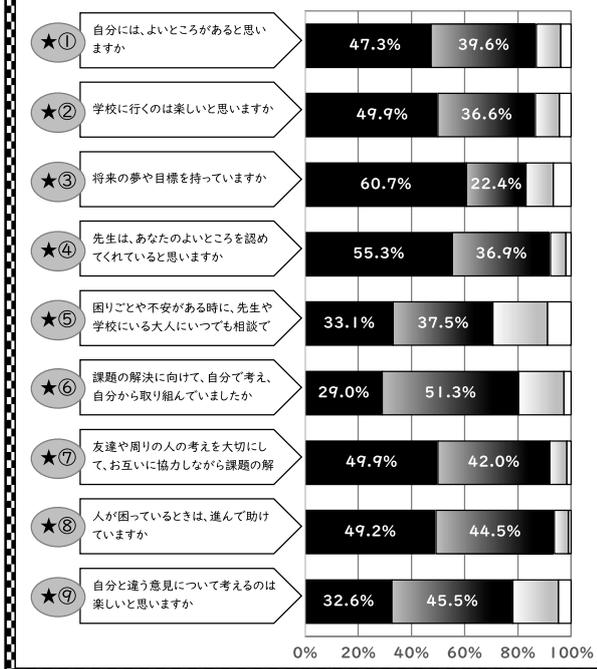
有効回答数：149

令和7年度前期の肯定的回答率との比較



## 全国的な傾向は…

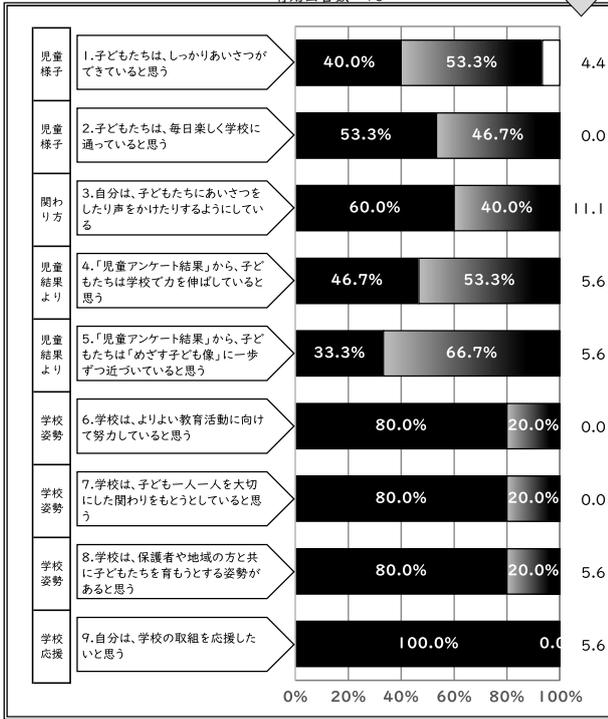
【参考】文部科学省・国立教育政策研究所「令和7年度 全国学力・学習状況調査」報告書「質問紙調査」より



## 【地域】

有効回答数：15

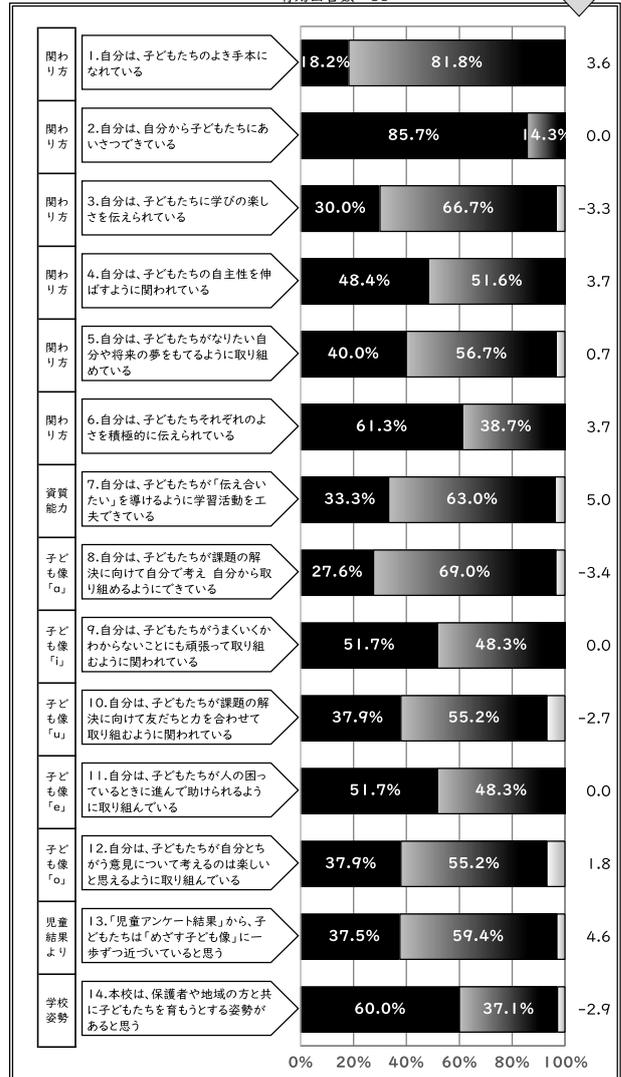
令和7年度前期の肯定的回答率との比較



## 【教職員】

有効回答数：35

令和7年度前期の肯定的回答率との比較



# 《各アンケート結果より》

## 児童アンケートより

後期児童アンケート結果において、子どもたちが日々の学校生活の中で互いよさに気づき、温かい関わりを大切にしている姿が改めて見えてきました。「7. 友だちのよさや頑張りを認めることができる」という項目では、95.6%が肯定的に回答しており、前期に続いて高い結果となりました。教職員からの声かけが日常的に積み重なり、友だち同士で自然とよさを伝え合う関係づくりが進んでいます。一方で、「8. 困りごとや不安があるときに誰かに相談できる」という項目では、肯定的回答76.8%、否定的回答23.2%と、他の項目に比べると低めの傾向が見られました。子どもたちが自分の不安や悩みを言葉にして誰かに伝えることは時に難しく、その背景には、悩みの内容を整理することや、安心して相談できる相手を見つけることの難しさがあると考えられます。これからも声をかけやすい雰囲気づくりを大切にしていきたいと思います。また、「2. 進んであいさつをしている」の項目については、「あてはまる」53.2%、「どちらかといえばあてはまる」33.7%という結果でした。教職員や地域の方々からの印象としては、あいさつを返す姿は見られる一方、自分から先に声を出すことにはまだ課題があるように感じられます。学校全体で引き続き、あいさつの意味や大切さを伝えていきたいと考えています。さらに、「9. 自分の考えを話せている」や「14. 自分と違う意見について考えるのは楽しい」の項目では、数値としてはわずかに低下が見られましたが、教職員の実感としては、子どもたちが考えをもつこと自体には大きな変化はなく、むしろ日々の学習の中で伝えようとする姿も多く見受けられます。考えのプロセスを言葉にする力は時間をかけて育つものでもあるので、今後も丁寧に支援を続けていきます。

## 保護者・地域アンケートより

「保護者アンケート」中に記述にいただいたご意見等については、3/16(月)～3/19(木)の9:00～17:00まで職員室にて閲覧していただけますので、ご希望の方は職員室にお声かけください。

保護者・地域アンケートの結果からは、本校の教育活動に対する温かいまなざしと継続的なご支援が、前期同様大変強く感じられる結果となりました。「〈保護者〉10. 〈地域〉6. 学校は、よりよい授業づくり／教育活動に向けて努力している」という項目では、〈保護者〉97.3%〈地域〉100%の肯定的な回答があり、日々の取組に対する信頼の高さが示され、大変ありがたい結果となりました。また、「〈保護者〉12. 〈地域〉8. 学校は、保護者や地域の方と共に子どもたちを育もうとする姿勢がある」という項目では、〈保護者〉97.3%〈地域〉100%という非常に高い評価をいただきました。子どもたちが直接目にしないところでも多くの方々に支えられていることを、改めて感じることができた結果となりました。一方で、「〈保護者〉6. 自分は時間を惜しまずわが子の相談にのれている」では、約2割の方が否定的に回答されており、家庭でもその時間の確保に悩みを抱えながら子どもと向き合っている様子もうかがえます。学校・保護者・地域がつながり合い、子どもたちの小さなサインに早く気づき、温かく支え合う関係づくりを引き続き大切にしていきたいと思います。

## 教職員アンケートより

教職員アンケートの結果において、子どもたちのよさを認め、寄り添いながら学習活動を工夫しようとする姿勢が後期も強く表れていました。「6. 子どもたちそれぞれのよさを積極的に伝えられている」という項目では、100%が肯定的に回答し、日々の中で一人一人のよさにしっかり目を向けている教職員の姿がうかがえます。また、「7. 子どもたちが『伝え合いたい』を導けるよう学習活動を工夫できている」という項目においては、96.3%が肯定的に回答しており、今年度の育成を目指す資質・能力である「伝え合う意欲」と深くつながる実践が進んでいることが見てとれます。さらに、「12. 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えるよう取り組んでいる」という項目においても、93.1%と高い肯定的回答でしたが、この資質・能力は短い期間では成果が見えにくい面もあるため、今後も継続的に取り組んでいく必要があります。教職員同士が互いの授業を見合い、よさを伝え合う「みるみるWeek」などの取組も続けており、学校全体として学び合いながら教育の質を高めていく流れがさらに強まっています。今後も、一丸となって子どもたちの学びを支えていきたいと考えています。

## 学校運営協議会理事会・開かれた学校委員会からのコメント

学校運営協議会の理事会と開かれた学校委員会では学校とともに、毎回アンケートの回答動向や実際の子どもたちの様子などを踏まえて、結果の検討や意見交換をしています。

さて、子どもたち全体では、「8. 困りごとや不安を誰かに相談できる」、「9. 自分の考えを話せている」、「14. 自分と違う意見について考えるのは楽しい」の肯定的な回答の割合がやや低く80%前後、「4. 進んで学習に取り組んでいる」、「5. なりたい自分や将来の夢」、「10. 課題解決に自分で考え自分で取り組んでいる」も85～87%ほどで、前期に比べて低下しているものもあります。ただ、これは例年と同様の傾向であり、値自体が絶対的に低いわけではなく、ある意味では本校の子どもたちの特徴ともいえます。さまざまな取組自体はできているけれど、より自律的・能動的に取り組むのが望ましいと子どもたち自身が分かっている・感じているということなのだと思います。例年、後期は前期に比べて肯定的な回答の割合が低下しがちですが、それは必ずしも状況が悪くなったからではなく、限られた時間の中で学習や活動が高度になるとともに、成長により子どもたちの意識が高くなって回答基準が上がるということもあるのでしょう。子どもたちの思いを尊重しつつも、活動や取組を見守り、必要に応じてサポートしてあげられたらよいですね。

また、他者への相談やコミュニケーション関連の項目では、特に低学年～中学年で肯定割合がやや低かったり前期より下がったりしています。思考の内容や不安などの感情、悩みなどを漠然ともってはいても、それをうまく言葉にすることができなかつたり時間がかかったりするためかもしれません。急かされるとプレッシャーになってますます言葉が出にくくなることもあるので、学校でも家庭でも、子どもが自分の言葉で話すことができるまで急かさず、できるだけ時間を取って言葉や行動を待ってあげられたらよいと思います。その上で子どもたちには、自分の思いや考えを相手に伝えて理解してもらうには、それらを言葉にすることも大切だということ分かってほしいです。

保護者および教職員の皆さまは、時間的・心理的な余裕をもちにくい中でも、それぞれ精一杯のことをしていただいていることでしょう。もっと自信をもっていただいいてよいと思います。大人が自信をもって接することで、子どもたちも安心して、より元気に、前向きに、学んだり遊んだり他者と関わったりできるようになるのではないのでしょうか。